

## 平成 30 年度 第 4 回広島市感染症対策協議会

平成 30 年 7 月 17 日

- 【日 時】 平成 30 年 7 月 17 日（火）19:00～20:00  
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室  
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲 さなえ、  
堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、安井 耕三、松原 啓太、南 心司

### 1 感染症に関する最近の情報《公開》

#### (1) 梅毒対策について（資料 1 P 1～8）

平成 30 年 7 月 13 日現在、本市における梅毒患者の報告数は 60 件となっており、平成 29 年の報告数 62 件を上回る過去最高のペースで届出が提出されている。

患者の約半数は風俗店従事者又はその利用者であり、男性は 20 歳代～40 歳代、女性は 20 歳代が多くを占めており、この傾向は昨年から変わっていない。

本市では、これまで、各保健センターにおいて希望者に対し梅毒検査を行ってきたが、患者報告も少なかったことから、積極的な広報や啓発は行ってこなかった。しかしながら、昨年度からの流行状況を鑑みると、より広く予防啓発を行うとともに、本市の検査体制の整備と受検勧奨を行うことが急務になっている。

このことから、平成 30 年 7 月 1 日より本市ホームページにて、保健センターで実施している梅毒検査の周知を開始した。また、今後、H I V 迅速検査と同様に、梅毒迅速検査を導入できるよう検討を進めている。

（委員意見）

今できる対策は、予防啓発と検査の受検勧奨しかないため、継続して取組を進めてもらいたい。

#### (2) 平成 29 年度における本市の予防接種実施状況について（資料 1 P 9～10）

平成 29 年度の本市における予防接種の実施状況を取りまとめた。

それによると、麻しん・風しんワクチンの接種率は、1 期が 96.2%、2 期が 93.8%であった。2 期の接種率については、昨年度よりやや上昇し、近年では最も高い接種率を記録したが、国の指針で示されている 95%には届かなかった。

また、高齢者のインフルエンザワクチンについては、シーズン当初、ワクチン不足が懸念されたが、最終的な接種者数は平成 28 年度と同等の数字となり、希望者の接種は概ね行えたものと思われる。

平成 28 年 10 月に定期接種化された B 型肝炎ワクチンについては、同時期に接種するヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンと概ね同等の接種率であった。

（委員意見）

今年度沖縄県や愛知県等で麻しんが流行したことも踏まえ、麻しん・風しんワクチン 2 期の接種率が 95%以上になるよう、引き続き啓発に取り組んでほしい。

#### (3) 豪雨災害に伴う生活衛生に関する被災者支援について（資料 1 P11～23）

平成 30 年 7 月 5 日からの豪雨に伴い、安佐北区及び安芸区を中心に大規模な土砂災害、河川の氾濫が発生したため、多くの市民が被災し、避難所等で不自由な生活を強いられている。本市の保健部（健康推進課ほか 3 課）では、食中毒や感染症発生を未然に防ぐため、避難所等を巡回し、食品の保管や取扱い状況、トイレの清掃や消毒、換気やゴミの取扱いなどについて助言や指導を行っている。

また、家屋等の消毒については、避難所等で消毒方法等を示したチラシを配布するとともに、床上浸水の被害を受けられた方に対しては、現地を訪問し、取扱方法を説明した上で、消毒剤（塩化ベンザルコニウム）を配布している。

災害が発生してから約10日が経過したが、気温の高い日が続いており、今後、被災地域における感染症の発生動向について注視していく必要がある。

(委員意見)

引き続き、避難所等での感染症予防啓発に努めていただくとともに、次回協議会においても対応状況等を報告してほしい。

## 2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

区分	病名	6月分	7月分
		報告日 6/4~7/1	報告日 7/2~7/13 現在
2類	結核	10人 (結核8人、潜在性結核2人)	1人
4類	E型肝炎		1人(7/3)
	日本紅斑熱	2人(6/6、6/28)	
	レジオネラ	7人(6/5、6/7、6/13、6/15、6/20、6/28、6/29)	2人(7/12、7/13)
5類	後天性免疫不全症候群	2人(6/19、6/28)	
	水痘	1人(6/13)	
	梅毒	12人(6/4、6/11、6/11、6/13、6/14、6/15、6/19、6/19、6/22、6/25、6/26、6/26)	6人(7/2、7/2、7/3、7/10、7/13、7/13)
	播種性クリプトコックス症	1人(6/27)	
	百日咳	7人(6/4、6/7、6/7、6/13、6/18、6/25、6/25)	1人(7/13)

## 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

( )は届出日

## 4 その他《公開》

次回開催予定日 平成30年9月18日(火) 14階第7会議室

### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：6月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

# 広島市感染症対策協議会コメント（7月分）

平成30年7月17日

## 1 患者情報

### (1) 概要

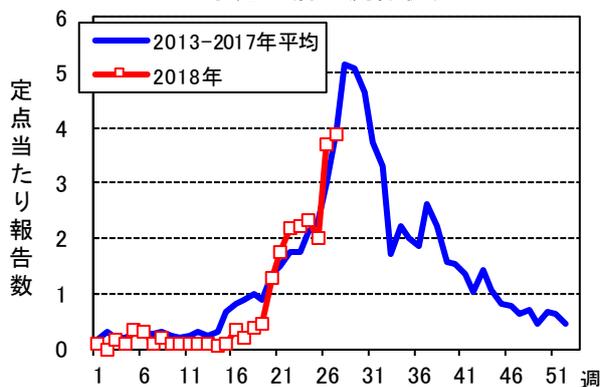
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は1,472人で、前月比0.97とほぼ横ばいであった。

RSウイルス感染症は大きく増加、水痘、手足口病、ヘルパンギーナは増加、流行性角結膜炎はやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はほぼ横ばい、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎はやや減少、突発性発しんは減少、インフルエンザは大きく減少した。

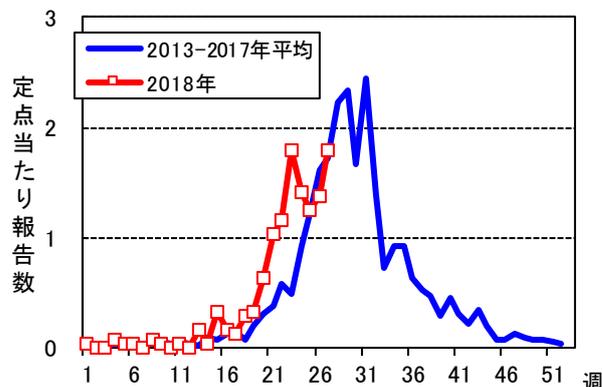
### (2) 特記事項

- 手足口病、ヘルパンギーナが増加傾向にあり、第27週(7月2日～7月8日)は、それぞれ定点当たり3.88人、1.79人の報告があった。これらの感染症は、乳幼児を中心に夏季に流行するため、保育園や幼稚園などの集団生活の場では特に注意が必要である。回復して症状がなくなった後も2～4週間程度は便中にウイルスが排出されるため、手洗いを励行し、排泄物を適切に処理するなど、感染予防対策を徹底することが重要である。なお、広島県は6月28日にヘルパンギーナ警報を発令した。
- RSウイルス感染症は、例年同時期と比べて多くなっており、第27週は定点当たり0.75人の報告があった。RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症で、生後数ヵ月までの乳児が初感染した場合は細気管支炎や肺炎などの重篤な症状を引き起こす場合があるため、特に注意が必要である。手洗いの励行や咳エチケット、おもちゃや手すりなどをこまめに消毒するなど、感染予防対策を徹底することが重要である。
- 今年の梅毒の累計報告数は、7月8日現在、59件(昨年同時期の約2.1倍)となった。20～40代が全体の84.7%を占め、男性では30代、女性では20代が最も多くなっている。感染の疑われる症状がある場合には、早期に医療機関を受診することを勧める。梅毒に感染していたことがわかった場合は、パートナーと一緒に検査を行い、必要に応じて治療することが重要である。

#### 手足口病の流行状況



#### ヘルパンギーナの流行状況



### (3) 6月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 10件（患者：8件、潜在性結核：2件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：日本紅斑熱 2件 レジオネラ症 7件
- 5類感染症：後天性免疫不全症候群 2件 水痘 1件 梅毒 12件  
播種性クリプトコックス症 1件 百日咳 7件

### (4) 今後の流行予測

- 手足口病・・・【流行中】
- ヘルパンギーナ・・・【流行中】
- RSウイルス感染症・・・【流行始まり】

## 2 検査情報

6月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	5月	1人
感染性胃腸炎	アストロウイルス	5月	1人
手足口病	エンテロウイルス 71 型	5月	1人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A2 型	5月	2人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 85 型	4月	1人
	アデノウイルス 53 型	5月	1人
その他の呼吸器疾患 (気管支炎) (肺炎)	ライノウイルス	5月	1人
	ライノウイルス	5月	1人
	コクサッキーウイルス A2 型	5月	1人
その他の消化器疾患 (腸重積症) (その他)	アデノウイルス 3 型	5月	1人
	アデノウイルス 5 型	5月	1人
	アデノウイルス 5 型	5月	1人
その他の神経系疾患 (麻痺)	ライノウイルス	4月	1人

14人の患者から9種類のウイルス14株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A2 型3株、ライノウイルス3株、アデノウイルス5型2株、インフルエンザウイルス A(H3)型、アストロウイルス、アデノウイルス3型、同53型、同85型及びエンテロウイルス71型各1株であった。

5類感染症定点情報  
(平成30年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第26週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		1	0.03		10	流行性耳下腺炎		16	0.68	
2	咽頭結膜熱		70	2.92		11	RSウイルス感染症		52	2.17	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		285	11.87		12	急性出血性結膜炎		8	1.00	
4	感染性胃腸炎		534	22.25		13	流行性角結膜炎		44	5.52	
5	水痘		27	1.13		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		246	10.25		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		2	0.08		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん		29	1.21		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		140	5.84		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		35	3.89
2	性器ヘルペスウイルス感染症		20	2.22
3	尖圭コンジローマ		10	1.11
4	淋菌感染症		11	1.22
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		15	2.14
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		3	0.43
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成30年6月分)

第23週～第26週(6月4日～7月1日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ペスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	10	71	1,775	10,426	
	10 ジフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	2	
	16 細菌性赤痢	-	-	11	89	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	1	426	984	
	18 腸チフス	-	1	-	18	
	19 パラチフス	-	-	-	10	
四類	20 E型肝炎	-	-	34	202	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	1	114	472	
	23 エキノコックス症	-	-	2	6	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	1	4	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	-	-	
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	1	
	30 狂犬病	-	-	-	-	
	31 コクシジオイデス症	-	-	1	1	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	11	38	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	1	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 テクングニア熱	-	-	-	1	
	40 つつが虫病	-	1	12	88	
	41 デング熱	-	1	9	62	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	2	3	35	87	
	46 日本脳炎	-	-	-	-	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	1	2	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	1	3	
	55 マラリア	-	-	5	23	
	56 野兎病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	1	1	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	1	
	61 レジオネラ症	7	16	261	785	
	62 レプトスピラ症	-	-	1	2	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	-	6	72	408
		65 ウイルス性肝炎	-	2	20	100
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	2	136	814
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	10
		68 急性脳炎	-	4	43	377
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	2	10
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	14	103
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	4	45	387
		72 後天性免疫不全症候群	2	5	107	618
		73 ジアルジア症	-	-	7	39
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	37	248
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	4	21
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	8	216	2,002
77 水痘(入院例に限る。)		1	1	41	211	
78 先天性風しん症候群		-	-	-	-	
79 梅毒		12	56	635	3,236	
80 播種性クリプトコックス症		1	1	14	87	
81 破傷風		-	-	12	50	
82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	-	
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	1	5	26	
84 百日咳		7	21	884	2,813	
85 風しん		-	4	9	43	
86 麻しん		-	-	9	176	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	1	9	